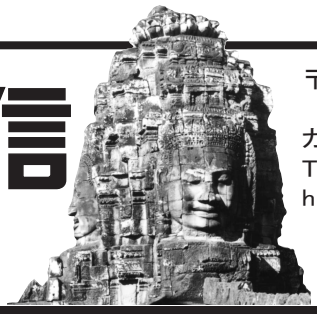
# カンボジア通信

カンボジア教育支援基金(KEAF-Japan)会報

2009. 6月　51号


〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24
JICA地球ひろば気付
カンボジア教育支援基金　事務局
TEL&FAX 048-431-5669(連絡先竹口)
http://www.keaf-japan.com



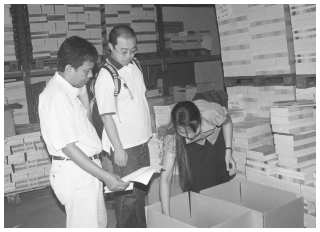
郵便振替口座
00150-1-558318 カンボジア教育支援基金

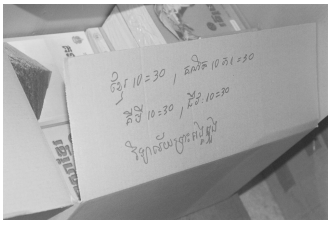

## 初めての支援活動体験

事務局員　岡本 俊樹

### 教科書の調達

今回私は3月下旬から12日間にわたって、現地を訪問して参りました。まず行ったのが、教科書の印刷販売所にて、各学校から出ている教科書支援の要望を受けての発注です。この作業がけっこう大変です。各学校からのリストと照らし合わせ、在庫のある物とない物、在庫があっても数量通りない物、それらが学校、学年、教科ごとに分かれていますから、1校で300冊、400冊というのはザラな数です。その上、1年中暑いカンボジアですが丁度この時期は年間通して最も暑い時期となります。その暑さも手伝い気の遠くなるような作業でした。





教科書印刷出版所

### 学校を訪問して

今回、各小中高校をまわって感じました事は都市部と地方との教育格差です。地方では政府からの教科書の支給率は平均して20-30%程度なのに比べ、都市部の学校を訪問すると中学校では約70%、高校でも約50%の支給率と格段の差が出ています。それがそのまま成績や進学率に反映されているというのが現状です。そういった格差をなくしていく事こそ、カンボジア教育支援基金の役割だと改めて痛感致しました。

### 修学旅行

ＫＥＡＦで行っている支援活動の一つに、高校の修学旅行支援というものがあります。普段村に住んでいる生徒達は首都プノンペンに出掛ける事は滅多にありません。日帰りでプノンペンの史跡・観光名所をまわるものです。

今回初めてプロモルプロム高校の修学旅行に同行させて頂きました。殆どの生徒はプノンペンに行くのが初めてで大変にはしゃいでおりました。また、服装も自由なので女子生徒は普段着ないようなお洒落な服を着て満喫している様子でした。一部女子生徒の中に炎天下にも関わらず、セーターを着ている子がいたので「暑くないの」と聞いたら、「日焼けしたくないから着てるの」との答えが返ってきました。

ワットプノムで記念写真

生徒達や新任の若い先生は、プノンペンという別世界に圧倒されつつも、同時に心から楽しんでいるように感じ取れました。また、王宮などの観光名所では欧米人の観光客も多く、初めて見る欧米人に対して普段勉強している英語で話しかけていいものかどうかわからずに、躊躇している生徒達を見た時には、かわいいものだなという印象を受けました。お土産を買っている時は、ついつい指定された時間をオーバーし、ガイドさんに注意されたりする生徒が多数いたりと文字通り、時間を忘れて楽しんでいるようでした。

（キリングフィールド、ツールスレーン博物館、国立博物館、王宮、ワットプノム）

# 修学旅行の感想文

**―2009 年 4 月 6 日実施―**

**貧しく教科書も変えない子供たちにも修学旅行の機会を―とスタートした KEAF 主催修学旅行を本年も実施しました。**

**私たちにも、かつて東京タワーや皇居を始めてもみて感動したことを覚えておられることも多いのではないかと思います。また、クラスの中にお金がなくて修学旅行を泣く泣く断念した同級生もいたことを・・・。**

**参加した学生の感想文をお届けします。**

**プロモルプロム高校 12 年生**
**12B　ミトゥ・ラチャナ**（Mith Rachana）

## 見学ツアーで感じたこと

クラスメイトたちと私は、2009 年 4 月 6 日にスタディーツアーで、とても多くのところに行きました。ビオンチュン（キリングフィールド）、ツールスレーン、国立博物館、王宮、ワットプノムなどです。私たちは、今まで一度も行ったことの無い所ばかりで、とても興奮し、幸せに感じました。特に、ツールスレーンとビオンチュンはカンボジアの人々が殺された所で、その人たちに対して心が痛み、とても悲しく思いました。今でも、あそこで見た展示写真が私たちの心に深く残っています。

ツールスレーンと見学の生徒達

処刑された母子の写真

奨学金を支給してくれるだけでなく、こういった場所を見学させてくれる日本の皆様に感謝いたします。日本の方々がカンボジアに続けて支援してくださることを願っています。皆さんの、ご健康、幸福と繁栄をお祈りします。

心からの敬意と親愛の情をこめて、

MITH　RACHANA より

**12 年 B　チェム・ダラー**　（Chhem Dara）

## 私の印象

キリングフィールドとツールスレーン博物館を見学して、クメールルージュの時代（1975-1979）の歴史を学びました。そこにあった写真で、多くの人を残虐に殺したこと、そして何人かの首謀者のことを知りました。

国立美術館には古代の彫像物が展示されていました。古代の展示物や彫像などを見て、とても誇りに思いました。総てのものは古い時代のものでした。古代のクメール文明・文化を知ることが出来てとても嬉しく思いました。

王宮で記念撮影

王の墓（王宮）

王宮は王様の家で、とてもすばらしい建物でした。王宮を見られてとても幸運でした。ワット･プノムはプノンペンで、一番人気のある楽しみスポットです。プノンペン市の中心部にありますが、プノンペンにいることを忘れさせます。

プロモルプロム校の生徒を歴史的な場所や楽しい場所に行かせてくれた、支援者の方々に感謝しています。支援者の皆さんのご健康と仕事の成就をお祈りします。

これからも、私たちの学校を支援していただける様お願いします。

国立博物館

## 第24回 カンボジア・スタディツアー

**カンボジアの子どもたちはすごく貧しいけれど、さまざまな悪条件の中で目を輝かせて勉強しています。スタディーツアーに参加して、子どもたちや地元の人々と交流し、励まし、友達になってください。**

**参加者の皆さんにも、きっと素晴らしい出会いと発見があります。**

**【日程】**2009年8月17日（月）～25日（水）
**【訪問地】**カンボジア・プレイベン州
「プロモルプロム中高校」他
**【ツアー内容・目的】**
カンボジア・プレイベン州(農村地域)のKEAF･Japanが支援するプロモルプロム校で生徒、教師と交流します。電気、ガス、水道のない宿舎で、参加者同士の共同生活も体験できます。
**【募集人数】**５名以上
**【主催】**ＭＳツーリスト
東京都品川区西五反田2-28-2 第三岩田ビル
**【参加費】１３５，０００円（学生）**
日本からの往復航空運賃、成田国際空港施設使用料、現地移動費、食費、宿泊費などが含まれます。自由行動の時の食費、お土産代などは自己負担となります。
**【参加申し込み】**
事務局又は担当者にご連絡ください。
締め切り2009年7月17日（金）
**【お問合せ】**カンボジア教育支援基金
〒115‐0012 東京都渋谷区広尾4－2－24
JICA地球ひろば
TEL 090－4280－1600（ツアー担当岡本）

**ツアー日程概要2009年8月17～25日**

７/２５（土）顔合わせ・事前研修
８/１５（土）最終打ち合わせ
８/１７（月）成田(関西)空港出発
現地にてオリエンテーション
８/１８（火）「プロモルプロム校」へ
先生・生徒との交流・特別授業体験
小学校、中学校で交流
８/２２（土）村で病院など見学
プノンペンへ移動
８/２３（日）プノンペン市内見学
キリングフィールド・ツールスレーン
セントラルマーケットなど
８/２４（月）夕刻　プノンペン出発
８/２５（火）早朝　成田(関西)空港帰着

９月下旬　評価会・報告会

## 今年度の奨学生 2008.10－2009.7

奨学生の支援状況の報告　（51 人）

（下線付き氏名は女子生徒、無いのは男子生徒）

**○プロモルプロム高校**　47 人

・12 年生　19 人　7 月卒業予定

Dy Sothearoth、Ven Touch、Phol Sophors、Yim Samnang、Neo Bori、Khong Vannak、Onav Salath、Pouv Vorn、Phal Chorvorn、Chan Ratha、Eng Buny、Choun Sinath、Run Kuntea、Dol Seath、Has Sinoun、Yem Rou、Chep Sreypao、Phal Samloth、Bo Hoeung

・11 年生　15 人

Out Ravy、Sen Romduol、Poa Phanith、Nou Ratha、Lim Sila、Vorn Sinath、Sean Rina、Van Kanitha、Phim Sreyneang、Chea Sreypov、Moeung Samath、Ny Sreynet、Men Yeth、Sen Sovannak、Boln Phearum

・10 年生　13 人

Deuk Nimol、Chhean Thida、Kong Kagna、Sok Kosal、Nak Sophea、Seng Sineth、Sok Ratha、Or Samnay、Kor Ravit、Krom Huon、Thoean Tet、Sim Dara、Tay Sreyneth

**○コンポントゥラバイ高校**　3 人　10 年生

Rim Sokkary、Phoy Samall、Touch Kong

**○プレアンドゥン高校**　1 人　10 年生

Yem Pich

## 次年度の奨学生候補 2009.10－2010.7

金子会長他 2 名が 6 月 16 日－20 日次年度の奨学生の面接に出かけます。

**○プロモルプロム高校**　47 人（継続・新規）

・11 年生　26 人

Kong Vanak、Nhav Salat、Chea Sreypao、Pao Phanith、Phim Srey Neang、Nou Rortha、Born Phearun、Lih Seila、Sean Rina、Ny Sreynet、Men Yet、Moeung Sah At、Van Kanitha、Sen Romduol、Sen Sovanak、Heap Lim、Leng Kavei、Din Davi、Chea Munira Chana、Pich Thach、Ven Sokuon、Suon Saksa、Sokha Sela、Khan Simak、Kruy Sinet、Seng Sophors

・10 年生　18 人

Deuk Nimuol 、Chhean Thida、Sok Kosal、Nak Sorhea、Seng Sineth、Sok Rortha、Or Samnay、Kor Ravit、Kroh Huon、Sim Dara、Thoeun Tit、Chey Kagna、Phon So Cheat、Van Dany、Oeun Thoeun、Sin Chankea、Mao Kanika、Ny Bunthoeun

・9 年生　3 人

Tay Sinet、Hak Dany、Kong Kagna

**以下 3 中学の推薦者は、高校進学**

**○バンティチャクライ中学**　9 年生　5 名（新規）

Chhurn Chanra、Thon Ratha、Yorn On、Heoun Kolap、Yeoung Sokly

**○プレイトープ中学**　9 年生　5 名（新規）

Koui Sovannara、Heng Chay、Mut Veasna Hang Reaksmey、Ron Cheoun

**○プラティアート中学**　9 年生　11 名（新規）

Ngem Chandara、Mom Sreimauv、Veng Piseth、On Sopeak、Ing Samaun、Ngem Thida、Phen Sreineth、Em Nimol、Sor Sovann、Bin Ron、Ath Samaun

**○コンポントゥラバイ高校**　10 年生　3 名（継続）

Touch Kong、Phoy Samall、Rim Sokkary

**○プレアンドゥン高校** 1 人　10 年生（継続）

Yem Pich

新しい奨学生の写真は、改めてご紹介します。

# 2009年4月現地教育支援報告

事務局　竹口素弘

**期日：2009年3月29日～4月8日**
訪問者：岡本事務局員、竹口事務局長
**目的:**本年度の教材(教科書)支援、奨学生の状況確認、新年度奨学生について調査。

**ー教科書支援の経過ー**

各学校から、教科書について不足、要望のリストを提出してもらい、それに基づいて調達し届ける。最初に、教師用教科書、次に生徒用教科書の順に配布。必要とされているものを予算計画に応じて支援する。

学校により、教育省からの支給状況、学校経費の受領状況、その用途など状況がさまざまなため、必要度の高いと思われるものより支援を行う。下記は 4月の具体的支援実績(1)と各学校の実情その他(2)。

## 1．アンサー小学校

（1）教科書支援

| 学年 | クメール語 | 数学 |
|---|---|---|
| 1年 | 76冊 | 76冊 |
| 3年 | 44冊 | 44冊 |
| 5年 | 33冊 | 33冊 |
| 6年 | 32冊 | 32冊 |

教科書合計370冊
絵本　象、ウサギ、猫の物語など　計50冊

（2）教育省から教科書の支給状況
2007年5月末　1年生用50%
2008年11月　2年生の教科書100%支給
3年～6年までは、支給はされていない。
2009年に教科書が支給されるかどうか不明。
配布の場合は郡の教育省にとりに行く。

## 2．ソンポン小学校

今回訪問時に生徒用教科書の要望リストを受領する。教師用指導教科書は配布済み。
各学年生徒の教科書は、教育省から支給されていない。(一部KEAFで支援2008年度)

## 3．プレイトープ小学校

（1）教科書支援
3年生の教科書を支援　(6－4年は1月に支援)
クメール語、数学、理科、社会：各80合計320冊

（2）教科書状況
2年生の教科書、2008年12月20%教育省より配布。1年生用は未配布で1冊も無い。

## 4．バンティチャクライ中学校

（1）教科書支援
不足で支援要望の英語の教科書は在庫が無かったため、次回支援の予定。

## 5．プラティアート中学

（1）教科書支援（不足分）
7年物理1　30冊、7年物理2　6冊、
7年社会　9冊　合計45冊

（2）教育省から教科書の支給状況
平均すると20%ぐらい支給、管理している古い教科書を利用・・・全体で約50%不足。
英語、クメール語、数学は支給されないことが多い。
中学校は郡の教育省へ受け取りに行く。
教科書：年度始めに生徒に貸与し、年度末に返却させる。95%ぐらい返却される。
一部自分で買う生徒もいるが、非常に少ない。

## 6．プレイトープ中学校

（1）教科書支援（生徒用）
生徒用英語の教科書の要望あるも、当基金の学校割当予算枠の関係で次回支援予定。

（2）教育省からの教科書支給状況
支給は殆どされていない。(地域的な問題)

## 7．プロモルプロム高校

（1）教科書支援（教師用）
10年数学3冊、10年物理3冊、12年物理3冊
英語参考書 Oxford English Grammar　3冊
数学参考書（例題解答･演習用）4冊

## 8．コンポントゥラバイ高校

（1）教科書支援（教師用）
10年数学　4、10年物理　5、12年物理　2
教科書支援要望（教師用）25冊

（2）プラティアート中学推薦奨学生の奨学金支給、受領書の預りを依頼している。

## 9．プレアンドゥン高校

（1）教科書支援（生徒用）
必要数はかなりの数になるので、分割して支援。
10年用クメール語、数学、物理、化学、生物、地理歴史、モラル各30冊、地学　17冊

（2）プレイトープ中学推薦奨学生の奨学金支給、受領書の預かりを依頼している。

## 「忘れえぬ国、忘れえぬ人たち」

### カンボジアと私、そして KEAF－Japan

カンボジア教育支援基金（KEAF－Japan）
会長　　金子敦郎

通信社の記者を 40 年近くもしたので多くの国を知ることができた。そのなかで一番深く長くかかわりを持つことになったのがカンボジアである。歴史的な悲劇を背負った小国で世界最貧国のひとつながら、人々は何となく優しく、人懐っこい。その国の大地に、危険な戦争取材をともにした２人のジャーナリストが眠っている。そして今、年に何回も貧しい農村に足を運び、子どもたちと触れ合っている。以下は「カンボジアと私」の物語である。

**クメールの栄光と悲劇**

カンボジア国民の９割以上を占めるクメール民族は､9 世紀ごろからアンコールワットに代表されるアンコール文明を開花させ、タイからインドシナ半島の大半にまたがる帝国を建設した。クメール民族は

海洋系でインド文明の強い影響を受けていた。周辺諸国がモンゴロイド（黄色人種）で中国文化圏に属していたなかではユニークな存在だった。このことも影響していたのかもしれないが、13 世紀ごろから隣国のタイとベトナムの挟み撃ちにされ、侵食され、衰退した。だからカンボジア人のほとんどはタイとベトナム、特にベトナム人が嫌いだ。

19 世紀半ばにはベトナム、ラオスとともにインドシナ３国はフランスの植民地支配に屈した。第２次世界大戦が終わり、世界は植民地解放の時代に入った。だがカンボジアにとっては新たな悲劇の始まりだった。ベトナム支配を手放すまいとするフランスと民族解放・独立を求める左翼勢力との激しい戦争が始まった。フランスが敗退すると、米国がこの戦争を自ら買って出た。ベトナム・カンボジア国境のジャングルは米軍に追われたベトナム・ゲリラが逃げ込む「聖域」になった。

カンボジアの指導者シアヌーク殿下はフランスとの話し合い独立を目指しながら、「隣国の戦争」には巻き込まれまいと必死の「綱渡り外交」に努めた。だが､殿下は 1970 年親米右派の軍事クーデターで追放され、カンボジアはベトナム戦争と一体化した戦争に引きずり込まれてしまう。シアヌーク追放はカンボジアを戦争協力に動員しようとした米国の筋書きだったといわれる。ジャングルに潜んでいた「クメール・ルージュ（赤)」と呼ばれるカンボジア左派勢力が反米・反軍事政権の戦争の主役に踊り出た。

**謎のクメール・ルージュ**

「クメール・ルージュとは何者なのか」－この謎に迫ろうとプノンペンに世界中から記者、カメラマンが詰めかけた。共同通信プノンペン支局長・石山幸基とフリーカメラマン・一ノ瀬泰造もその中にいた。当時サイゴン（現ホーチミン）に駐在してベトナム戦争の取材に当たっていた筆者も、時に応じてプノンペンに入った。２人と取材や食事、お酒－と親しく付き会うようになった。

ベトナム戦争で身に着けたゲリラ戦争取材のコツはカンボジア戦争では通用しなかった。クメール・ルージュがいつ、どこから出てきて、どこに消えるのか。それが全くつかめない。軍事政権側の兵士もまだ戦争に不慣れだ。いつの間にか戦闘に巻き込まれ死亡する記者・カメラマンが続出し、その数は数十人にも達した。それなのにタイゾー（一ノ瀬はカンボジア人にこう呼ばれた）は、まさに戦闘のその現場にいなければとらえられない迫真のショットを数多く残している。彼には危険を察知する鋭いカンと判断力が備わっていたからだ。戦場取材は彼のあとについて行けば安心だった。

石山は 1973 年秋プノンペン北約 40 キロ、古都ウドン近くの村の人民委員会の招待を受けて取材に入った。この解放区取材のお膳立てをしたのは共同通信支局のカンボジア人記者、コン・ボーンだった。タイゾーも同じころ、アンコールワットの地元の町シエムリアップから、クメール・ルージュ支配下のアンコールワット遺跡群の取材に向かった。２人はそのまま戻らなかった。間もなくクメール・ルージュの総攻撃が始まり、捜索の望みは絶たれた。

**恐怖政治－代理戦争**

1975 年 4 月 17 日プノンペンが陥落、黒装束のゲリラ兵を市民は歓呼で迎えた。「平和到来」と思ったのだ。コン・ボーンはこの歴史的な瞬間を至急電報で世界に報道した。2 週間後の同 30 日サイゴンも陥落し、インドシナ戦争は終わった。カンボジアはク

メール・ルージュの恐怖政治のもとにおかれ、宿敵ベトナムとの戦争が始まった。クメール・ルージュの処刑現場から奇跡的に逃れたコン・ボーンは家族ともめぐり合い、1980年タイに脱出、共同通信バンコク支局と連絡がついた。一家は日本に亡命した。戦争取材をともにした共同通信の記者たちや朝日新聞の友人が助けた。

ベトナムは1979年初めポル・ポトが率いるクメール・ルージュ政権をプノンペンから追い出し、ポル・ポト派を離脱した親ベトナム派による政権をつくった。極端な反西欧文化・反ベトナム政策をとったクメール・ルージュ支配の３年半余りの間に170〜200万人が強制労働や飢餓、政治弾圧によって命を奪われた。取材を通して知りあった多くの人々で生き残ったのは、コン・ボーン一家のほかはあまり知らない。

ポル・ポト派はジャングルに逃げ込み、プノンペン政権との間で長い内戦が始まった。ベトナムとソ連がプノンペン政権を、米国と中国がポル・ポト派をそれぞれ支援した。身勝手な大国の“代理戦争”に仕立てられたのである。

「地雷を踏んだらサヨウナラ」

1981年夏、内戦が激化するまでの束の間の、戦闘沈静の時期があった。プノンペン政権が石山記者捜索のための共同通信調査団の入国を認めてくれた。筆者は石山の夫人、母堂、兄の家族３人が加わった調査団の責任者を務めた。「仏様の引き合わせ」（母・蓁さん）としか思えない幸運が重なって、石山がプノンペン西方約 120 キロの山岳地帯に置かれたポル・ポト派大幹部タ・モクのゲリラ基地で熱病に罹って衰弱し死亡、戦没ゲリラ兵の共同墓地に埋葬されたことが分かった。石山を看取ったというゲリラ基地の下働きの女性に偶然出会ったのである。

調査団はまたシエムレアップで、タイゾーがクメール・ルージュに捕まり処刑されて、アンコールワット近くの村に埋葬されているとの情報を得た。両親が現地に入り遺体を確認した。両親は一ノ瀬が残した大量のフィルムをもとに『地雷を踏んだらサヨウナラ』など何冊もの写真集を刊行した。戦争とは何か―傷つき、死んでいく若い兵士たち、逃げまどう母と子、スラムの孤児。戦争カメラマン・一ノ瀬泰造の名は広く知られることになった。命をかけて戦争の悲惨さに怒りと悲しみをぶつけ、銃弾を避けながらシャッターを押し続けた彼の生き方は映画や演劇の主題にもなり、「自分」を見つけられないで悩む若者に強い刺激を与えている。「一ノ瀬泰造の墓」はアンコールワット観光地めぐりの名所のひとつになった。

子どもたちのために

コン・ボーンは1993年に12年ぶりに帰国、全土が破壊しつくされ、郷里プレイヴェン州には学校がひとつも残っていないことに衝撃を受ける。コン・ボーンは共同通信の仲間をはじめとする日本の友人や在日カンボジア人たちの協力を得てカンボジア教育支援基金の運動を開始した。

私たちが支援するカンボジアの子どもたちが、少しでもよりよい人生を送ってもらえたらいいーと思うだけである（一部の敬称は略させてもらいました）。

## ー　ボランティア日本語教師　ー
## やってみませんか

カンボジアは親日国です。村の人達はみんな日本を尊敬しているし、日本からの支援を心から喜んでくれます。日本のことを知りたがっています。カンボジアの最高学府プノンペン大学をはじめ多くの大学に日本(語)学科があって、大勢の学生が学んでいます。日本語ができて日本のことを知ると就職に役に立つという現実利益にもつながってきます。

私たちはもう10年ほど毎年、カンボジア日本友好学園にボランティアの日本語教師を派遣してきました。2007年から派遣先をプロモルプロム中・高校に移しました。同高校の所在地はプレアスダック郡都があるプサトリアと呼ばれる町で、町の有力者の家にホームステイして、生徒に日本語を教えています。水道もガスもありません。食事は3食を村の食堂で。1年中日本でいえば真夏。でも生徒や村の人たちと心から触れ合い、カンボジアを知り、時代をになう子どもたちに日本を知ってもらう楽しみがあります。詳しくは、HPのボランティア教師の報告などをご覧ください。

私も体験してみたいーという人を待っています。

**ありがとうございました。**（2009 年 2 月 24 日～2009 年 6 月 4 日）

年会費、寄付金、奨学金をお振込頂きました方々に心からお礼申し上げます。（敬称略）

個人情報保護のため非表示

==========

**[ ホームページを一新しました ]**

ホームページを立ち上げるのが精一杯で、更新が思うように出来ませんでした。このたび、会員の方の協力を得、新しくホームページを立ち上げました。

**HP アドレス**　http://www.keaf-japan.com

今後は、学生事務局員が更新を担当してくれますので、ご期待ください。活動案内、報告なども逐次お知らせします。

**[ 編集後記 ]**

カンボジアの学校の生徒からの生の声を少しでも多くお伝えしたいと思っています。生徒から集めてくる感想文や自由作文、コメントなどはクメール語が多く、英語が若干です。日本語は、未だこちらの学校で教え初めて 2 年ですので、簡単な挨拶程度しか書けない状況です。現地訪問時に、ガイドの人に翻訳してもらって、パソコンに打ち込んできたこともあります。

生徒も、まだまだ作文のようなことに慣れていなくて、英語の場合、10 人以上の生徒から修学旅行の感想文を受け取って喜んでいると、全く同じ内容のものが多々あり、結局 2 人分しかなかったというのが今回でした。クメール語の感想文の翻訳ができるといいのですが、方法を検討中です。

プノンペンの朝市で「はずかしい！」

**[ ボランティアのお願い ]**

カンボジア教育支援基金の活動をお手伝いいただける方、ご連絡ください。

1．カンボジア通信の発行時に、編集作業、宛名シールの作成などをパソコンで行います。こういう作業に関心のある方。
2．報告会、講演会のチラシ作成を手伝っていただける方。イベント企画の好きな方。
3．ホームページの更新や、変更を手がけたり、関連情報の収集整理に関心のある方。
4．カンボジアの生徒のコメントなど、翻訳の手伝いをしていただける方、おられましたらお願いしたいと思っています。

※ボランティア作業の後は、懇談が多く、結構楽しく、おしゃべりしています。是非お気軽に一報ください。

電話・FAX　048－431－5669

**keafjapan@yahoo.co.jp**　事務局　竹口素弘

# カンボジア通信51号追記

## カンボジア報告3

日本語ボランティア教師　鳥飼南希

去年の９月からプロモンプロム学校で日本語を教えていましたが、今年の２月から体調を壊し、５月１０日に帰国しました。今までご支援くださったみなさま、本当にありがとうございました。これからも現地の報告は当時書いていた日記の中から抜粋して載せさせていただきたいと思います。

今まで電気も水道も通っていなかった私の住んでいる村ですが、やっと電線工事が始まって、どこの家でも契約すれば２４時間電気が使えるようになります。しかしパソコンは使えてもインターネットは使えない。更に病気になることが多かった私はインターナショナルホスピタルに行くため、週末はプノンペンへ片道３時間かけて通っていました。この３時間がなかなか大変。まず村からネルーンというメコン川が通っているところまでバイクタクシーで１時間。ここでバイクタクシーをきちんと選ぶのが重要で、古いバイクだと座るところが硬くて一時間でお尻が麻痺します。顔見知りのバイクタクシーのおじさんに「おはよう、なみ！どこ行くの？」と声をかけられるといくらバイクが古くてもそのバイクタクシーにしてしまいますが。そしてバイクタクシーを降り、次は乗り合いバスに乗って１時間半から２時間。ここでもバスの選び方がとても重要で、選び方を間違えると３時間かかってしまうことだってあります。まずシステムとしては、人が車にぎゅうぎゅうになったら出発、降りる場所と値段は自分で交渉、というのが大体です。大切なのは人がもう既にたくさん乗っていること。そうでないと、ぎゅうぎゅうになるまで何時間でも待たされるのです。それからドライバーを見分けること。欲張りな運転手に当たってしまうと、人をたくさん乗せて儲けようとするのでずっとお尻が半分しか乗れないこともあります。そんな乗り合いバスですが、そこで初めて会った人に日本語を教えたり、クメール語の発音を教わったりして、楽しい時間でもあります。カンボジア人のこの気さくな性格が私が一番カンボジアで好きなところです。

電柱工事

バイクタクシー